

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270500760		
法人名	有限会社 錦秋会		
事業所名	グループホーム木かげ		
所在地	千葉県緑区土気町1500-1		
自己評価作成日	令和5年1月17日	評価結果市町村受理日	令和5年5月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7
訪問調査日	令和5年2月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>「木かげに入居して本当に良かった」と、入居者さんやご家族さんに思ってもらえるホームを目指しています。私たちは入居者さんの意思(想い)を大切に、寄り添い支援しています。私たちの理念は「笑う門には福来る」です。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>理念は「笑う門には福来る」として、ホーム内に掲示し、職員のポロシャツにプリントして周知している。職員の「笑う門には～」との掛け声に「福来たる」と利用者が応える関係性が出来ている。自立支援として掃除、食事の下拵えなどを職員の見守りのもと実施している。身体機能を維持するよい取り組みだと思われる。医療体制はホーム協力医が月2回訪問診療している。ターミナルケアには力を入れており、他の利用者も含めて皆でお見送りをしている。近隣住民との関係性がよく、畑の手入れをしてもらったり、防災訓練に参加してもらっている。ホームの中庭は広く、散歩や外気浴をすることができる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 グループホーム木かげ	ホームの理念「笑う門には福来る」を日々の合言葉として、入居者さん・職員間で共有し実践している。	理念は「笑う門には福来る」として掲示し、職員のポロシャツにもプリントしている。職員は利用者に寄り添って笑顔を提供し、関係性を構築している。利用者同士の諍いも笑いで解消されることが多くある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨今、ボランティアの方には、外で出来る事を行っていただき、離れた場所から、皆さんに紹介し、お礼を言っていたい。中学生の職場体験を通じて地域社会と交流している。	自治会に入り回覧板を回している。散歩の時に地域の人とあいさつを交わしている。高校生のボランティア、中学生の職場体験を受け入れている。草刈りや洗車のボランティアに来てくれた人を、作業後に利用者へ紹介している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨今、地域の集まりなどには、参加できていない。二カ月に一度発行の木かげ新聞をホームページに掲載し、世界中から閲覧できるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のやり取りは、各々に電話にてお話をさせて頂き、全員より感想や意見を伺い、紙面にて返答し、サービス向上に結び付けている。	今年度は書面開催で、報告先は家族、民生委員、地域住民、社会福祉協議会、地域包括支援センターである。入居者・職員の状況、身体拘束廃止権利擁護委員会の内容を伝えている。寄せられた意見への回答も記載している。	意見を受け付け、ホームの回答を公表する双方向のやり取りをしている。ホームからの報告にはヒヤリハット・事故報告を追加するとさらによいと思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に管理者がおこなっている。事故報告提出時など詳しく指導を頂いている。新型コロナウイルス感染症予防などの相談にも乗って頂いている。	区の担当課とは事故報告や生活保護、コロナ感染症対策、発電機の補助などで関わりがある。地域包括支援センターとは運営推進会議の書面で情報共有や意見交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会等は、定期的に行っている。玄関の施錠は時間(20時～翌朝7時半まで)を決め行っている。その間は、ユニットの掃き出しも、必ず一か所以上は開錠している。	「身体拘束廃止に関する指針」を策定し、身体拘束廃止権利擁護委員会および身体拘束適正化検討委員会を3か月に1回実施し、研修会を年4回以上実施している。スピーチロックなど、日常のケアで職員が互いに注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な勉強会を行い、スタッフ間で共有し、日々その場で指摘しあえるようにしている。外部研修には行っていない。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会にて、職員が分かりやすいようになっていると思う。ご家族へも毎月のお手紙にて、資料を添付したり情報の共有に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に管理者が行っている。管理者は、相談の段階でラインなどにて、ご家族に質問をしていただき、ご家族が安心納得し、契約・入居をして頂けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置や、面会時や定期連絡時などに、ご家族からのご要望を聞けるようにしている。運営に反映できている部分もあるかもしれない。	家族には、電話や来訪時に意見を聴いている。タブレットのアプリを使い、オンラインでも話している。面会の要望は多いが、コロナ感染状況を見て、慎重に判断をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員に要望を聞くようにしている。直して欲しい事や質上げなど。アンケート形式が多い。聞いたものを管理者から代表者へ意見を伝え、反映されている。	職員意見はミーティングや日常会話で管理者が聞き取っている。年1回、匿名の職員アンケートを実施し、法人代表に渡している。代表は必ず回答をおこなう。建物の経年劣化の修繕などを実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の中で、職員一人一人の出来高の確認をしている。頑張れば頑張っただけの評価をしてきている。個々の評価に合わせ昇給や賞与に反映されている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人教育をはじめ、日々の業務の中でも、先輩たちや管理者などが、その都度教育をしている。その結果(評価)を管理者から代表者に伝え、代表者が把握している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨今、他者の同業者との交流は殆どで来ていないが、YouTubeやテレビ番組の情報を管理者が流してくれている。それらの情報をもとに、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時にご本人同席の際、名刺をお渡しし、「何か困ったことがあれば連絡をください」と、管理者が行っている。入居時、職員は自己紹介を笑顔と共に行い安心していただけるよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に、ご家族の不安な点やご本人の不安な点などを伺い、ご要望に添えるようにしている、要望については「出来る事と出来ない事」をきちんと伝えさせて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の段階で、出来るだけ多くの情報を頂き、その時必要な支援に結び付けるようにしている。他の介護サービスの利用は、自費になる為、ご家族の希望に合わせている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活での、ルールなどを理解をしていただけるようご説明をしている。日常全般にて、入居者さんの出来ることは、して頂いている。入居者さんが、本音(愚痴)を言いやすい環境に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とメールのやり取りを定期的に行っている。日々の状況を担当職員やホーム長の手紙にて報告している。色々な事をまめにご報告させていただき、信頼関係を築けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	最近では、どこにも外出が出来ていなく、昔なじみの友人とも会うことが出来ていない。賀状のやり取りくらいしかできていない。	コロナ禍前は、墓参りや外出などへ家族と自由に出かけていた。ホームでの面会もあった。現在は電話や手紙で交流の支援をしている。面会は、コロナ感染状況によって中庭または玄関ソファでおこなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、自己紹介の段階ぐらいには間に入るが、気が付けば、自主的に有効な関係を築いてくれる。仲良しな方々を同テーブルにしたり、良好な関係が保てるように支援している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、メール(ラインなど)で繋がりがあ る為、未だ関係が途切れていない。ご家族 と故人の思い出話は尽きることがない。数 名の退去ご家族から、季節の差し入れを頂 いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべくご本人に伺っている。言葉にしづ ら い方は、ご家族の意向や、ご本人の表情か ら職員が読み取り、ご本人の意向に添える ようにしている。	意思を示すことが困難な利用者には、入所 当時に聞き取った情報から推察し、はい、い いえで答えられる声かけをしている。また表 情から思いや希望の把握に努めている。得 た情報は介護記録に記入し、職員間で共有 している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からご入居時に詳しい情報を頂いて いる。生活歴・病歴・暮らし方などを参考に している。入居後は、日々の会話の中で、 ご本人にさり気なく伺い、把握に努めてい る。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の挨拶から就寝時まで、ちょっとした表情 を見逃すことなく、気分の浮き沈みが少なく 済むよう把握に努めている。日々の中で、 身体能力の見極めをし、様々な事にチャレ ンジして頂いている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族さんのご要望を伺い、ご家 族(ご本人の参加今はない)・スタッフ間にて 話し合い介護計画書の作成をしている。	担当職員が日々の状況や家族の意向を取り まとめ、介護計画作成に役立てている。定期 的なモニタリングをおこない、状態の変化に 応じた見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきをケース記録に記載し、大事 な申し送り事項は、個人ファイルに記載、共 有している。ケース会議以外でも、その都度 必要に応じて話し合いの場を設け、見直し をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	固定観念にとらわれず、可能性を見つけ出 し、その時々個々に合わせた対応を心掛 けている。安全面を考慮し、2人介助・3人介 助を行っている		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心ケアセンターや社協の方などから、グループホームで利用できる、情報を頂いているが、現状外部からのボランティアさん等の受け入れを控えている為、地域資源の活用は出来ていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際、ホーム指定医にするか、本人の長年のかかりつけ医に受診するかを選んでいただいている。現状、18名全員が月2回、すずらんクリニックより、訪問診療を受けている。	月2回の訪問診療がある。歯科医や看護師の訪問もおこなわれている。健康状況はタブレットで記録し、職員間で共有している。急変時にも医療機関とスムーズに連携できる体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	終末期や体調不良時に、訪問看護が入る場合がある。その際、入居者さんの状態を詳しくお伝え出来るよう、訪問看護専用の用紙があり、決定事項等を個人ファイルに看護師に記入して頂き、共有している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時に、お互い「情報提供書」のやり取りをしている。ご家族にも分かるようメールにてご説明をしている。地域連携室の担当さんとは、管理者が直接のやり取りをさせて頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日々の会話の中で「最期は、どうしたい」等と伺い、「ここが良い」と言われる方には「ここで、私が看取るから安心して」と、さり気なく看取りについて話させて頂いている。ご家族には、「契約時やその時期の頃」意思確認(再)をしている。	契約時に意向確認し、重度化や終末期に向けたホームの方針を説明している。看取りの時期が来たら、提携医による家族説明をおこなう。終末期も他の利用者とともにリビングで過ごし、皆で見送る体制をとっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応など、定期的に勉強会を行っている。不安な場合は、主治医に対処法などを確認をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署に報告し、年2回の訓練を行っている地震・火災・避難訓練をおこなっている。コロナ禍にて消防署員の立会では行っていないが、消防署員の方々は、気にかけてくださっている。	年2回、夜間想定を含めた避難訓練をしている。消防署から借りた水消火器を用い、近隣住民とともに訓練する。水・食料は1週間分の備蓄がある。小型発電機2台、自家発電設備があり、全職員が操作できる。	事業継続計画(BCP)の完成を急いでいるところである。有事の際に事業継続していけるよう、計画を完成させることが促される。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	いかなる時も訪室時はノックをし、「失礼します」と入室をしている。その方を尊重した話し方を基本としているが、職員の入れ替わりにより、浸透度合いが減ってしまっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人に選択しやすい環境づくりに努めている。表情から読み取り代弁できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	比較的、自由に過ごして頂けているが、入浴の順番など、職員都合になってしまっていることも多々ある。ご本人の意志を尊重し、無理強いせず行えるよう、努力したい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時には、ご自分で選んだ服を着て頂いている。お化粧が出来る方には、入居前に使用していた、化粧品を持ち込んで頂き、お化粧をして頂いている。入浴時に爪切り・産毛処理等している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には、調理の下準備を手伝っていただいている。調理担当スタッフと共に、皮むきや刻みなどを行っている。盛り付けはスタッフと一緒にして頂いている。片付けも出来る方はしている。	畑で栽培した野菜等を一緒に収穫して食べたり、季節に合わせた食事を作る等、楽しくなるよう支援している。自立支援につながる声かけを職員が心がけており、下ごしらえや盛り付け、台拭き等を手伝う利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取制限がある方は、控えめの提供だが、その他の方には、好きな時に飲んでいただけよう、ポットにお茶が準備されている。食事は状態に合わせて刻みやミキサーを取り入れ提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けセッティングにて、ご本人に合わせた口腔ケア(歯磨き)を日々行っている。1週間に1度～1か月に一度、その方の状態に合わせて、歯科医師による機械清掃を行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、定期的な誘導をしている。身体的に難しい方以外は、便座に座って頂いている。自立している方は、行きたい時にトイレに行っている。	タブレットを用いて排泄状況を記録し、個々の排泄パターンの把握に努めている。夜間は睡眠を重視するか排泄を重視するかについて家族の意向も確認している。自分で出来ることは見守り、自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食後のトイレには、長めに座って頂けるように声掛け支援をしている。トイレに座られた際の腹部マッサージを行っている。下肢の冷え予防・改善の為、足浴やレッグウォーマーの使用をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なるべくご本人の希望に沿うようにしているが、時間の制約がある。夕方以降は、職員体制が手薄になってしまう為、夜間の入浴が出来ていない。	週2回は入浴できるように支援している。入浴剤を入れたり、個人の好みのシャンプーやボディソープを使えるようにし、リラックスできる工夫もしている。入りたがらない場合の工夫など、職員間でアイデアを出し合い、支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事以外は、日中比較的自由に過ごして頂いている。夜をぐっすり休んで頂けるように、日中をアクティブに過ごして頂きたいが、なかなか出来ていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご本人(ご家族)が、訪問薬剤管理指導の契約をしている。薬剤師さんの協力の下、把握に努めている。不安な場合は、きらり薬局さんに尋ねることが出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎朝、ご近所のワンちゃんが遊びに来てくれている。幸い、犬嫌いな方がいないので、皆さん喜ばれている。歌番組を見ながら、一緒に歌われている。自由に過ごして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、外出は控えている。日々の会話の中で「コロナがいなくなったら、どこに行きたいですか」と今後の希望などを話し、楽しみを持って頂いている。パンフレット等を見て、行ける日を楽しみにしている。	自由に、中庭のベンチで過ごしたり、畑を見に行くなど、外気に触れる機会を作るよう心がけている。リビングの大きな窓の近くで背中を窓に向けて日光浴をすることもある。コロナ禍で十分に配慮しながら、花見ができる場所までドライブし、外出支援をしている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時、ご家族・ご本人の要望にて、少額のお金を持って頂いている。今は、外出を控えている為使用はしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日々の会話の中で、「○○ちゃんに電話してみましようか」と職員から持出し、お電話をかけ、ご家族と会話を楽しん下さっている。ダイヤルは職員がしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	耳の遠い方が多いので、大声での会話になってしまっている為、テレビをゆっくり見たい方の邪魔になってしまっている。季節の折り紙や貼り絵を壁に飾っている。景色のカレンダーを貼っている	緑豊かな中庭に面し、窓が大きく明るいリビングは、利用者と一緒に作った季節の飾りがあり、ソファが複数置かれ、居心地のよい空間となっている。床掃除は入居者と一緒におこなっている。共有部分は掃除が行き届いており、清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員の声掛けにて、仲良しの方の居室にお邪魔し、静かな場所で会話を楽しんで頂いている。リビングで過ごされている際も、気の合う方同士の席で過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、馴染みの家具を持ってきてくださる方は少ないが、ご家族や大好きなペットの写真などをお部屋に飾って頂いている。ご本人の過ごしやすい動線をそのままにしている。	居室で居心地よく過ごせるよう、使い慣れた家具や仏壇、馴染みの品を持ち込んでもらっている。作品や家族写真を飾るなど、居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	立つ・座るときの安全確認は行っているが、その他は比較的自由に過ごして頂いている。中庭に出る際の出入り時は、注意し支援しているが、中庭は自由に歩いて頂くこともある。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと